

三國一朗

mikuni ichirō



女たちの遠景

女たちの遠景

mikuni ichirō

三國一郎

潮出版社

著者略歴

大正10年名古屋市生まれ。
東大社会学科を繰り上げ卒業して戦地へ。戦後朝日麦酒社員のかたわら放送界に入る。「徳川夢声の世界」で芸術選奨文部大臣新人賞を、「肩書きのない名刺」で日本エッセイストクラブ賞を受賞。

女たちの遠景

定価 980円

1982年6月15日 第1刷

著者 三國一朗

発行者 富岡勇吉

発行所 株式会社 潮出版社

東京都千代田区飯田橋 3-1-3

電話 03-230-0781

印刷所 明和印刷株式会社

製本所 株式会社鈴木製本所

© Ichiro Mikuni 1982 Printed in Japan

万一落丁・乱丁の場合はお取替えいたします

女たちの遠景*目次

女たちの遠景

橋の上の女 13

昼休みの女 16

「予告死」 19

神様を見た話 22

低音のひと 25

その名は加代 28

案内の名人 31

リーヌ・ノロ 34

妖艶の末路 37

ぐみの花 40

美貌の叔母 43

最後の丸まげ 46

「ねえや」たち 49

快人三態

カバシマ式グリーン・ライフ＊榎島敏子 55

トノスケは走る彫刻＊太田土之助 64

池ノ端のエストニア人＊アーサー・ルイケル 73

眼前の人

「味」^{あじ}な芝居 85

花柳さんのお隣り 93

私のなかの菊五郎 97

松五郎の遺品 103

*

飯沢さん 106

饅頭を食う男 110

きみ去りしのち 113

祝田橋 122

ふまじめ 127

産婦人科医、小児科医、軍医 136

銀三と竹ちゃん 145

枯葉

148

恩人

154

いい女

157

漱石の又弟子

161

小平夫人

163

話の廊下

見落し

167

まちがい

171

ひどいお茶

174

ゆであずき

177

女盛り 180

新聞小説と母 184

放蕩 188

銀座仰天以来 192

帝劇の切符 196

その廊下を私は走って 200

カーテン・コール 204

*

厚着のはなし 208

ビキニその他 211

煙草 215

左官職 218

昔は昔、今は今
221

私の「整理日」
225

*

食べる話
229

あとがき
239

初出一覧
243

裝丁
菊地信義

女
た
ち
の
遠
景

わたしたちの遠景

橋の上の女

日本映画の女優の中で、誰をいちばん好きかと問われたら、私は即座に伏見直江と答える。

伏見直江、古い女優である。明治四十一年生まれという記録が正しいとすれば、もうとつくに古稀をこえている。艶美な妖婦役で鳴らした最盛期の作品も、多くはサイレント時代のものだ。

近年、この伏見直江について貴重な文献を発表したのは「大河内伝次郎」の著者の富士正晴、「伏見直江むかし語り」という長い文章を月刊誌「歴史と人物」（中央公論社）に発表した千谷道雄、この二人であろう。中でも千谷は老齢に入った本人に何度も会って直話を聴き、女優の数奇な運命を細密に伝えている。

伏見直江がスターの座を獲得したのは、昭和二年の「忠次旅日記」三部作だといわれる。この有名な映画を作った監督の伊藤大輔、主演の大河内伝次郎、撮影の唐沢弘光、このトリオにもう一人加わって「自分も激しい火花を散らしながら、それによってスターになり、やがてその火花

のために深い手傷を負って、ついにはスターの座を失っていった」のが伏見直江であると、千谷道雄は前記の文章の中で巧みに説いている。

しかし、これから私が語るもう一つの運命は、その八年後の彼女に思いがけないチャンスをもたらし、持ちまえのあだっぽい容姿を投げ出しての渾身の演技を、しかも東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵のトーキー映画の名作に、おそらくは永久にのこす端緒となった。

そして、そのそもその出来事というのは、ある橋の上で、それも誰知らぬものもない有名な京都の五条の橋の上で起きたのである。その話を、私は映画監督の衣笠貞之助さんの口から直接聞いた。

衣笠監督の戦前の名作の一つに三上於菟吉原作の「雪之丞変化」がある。林長二郎といったころの長谷川一夫が三役を演じた華麗な復讐綺譚で、東下りの美貌の若女形、中村雪之丞（林長二郎）に仇情を寄せる凄腕の女賊、黒門町のお初という役が、その中にあつた。出が軽業の太夫だけに変幻自在、女ざかりの肌もあらわに飛ぶ、跳ねる、水にもぐるといふ美貌のおんな白浪で、雪之丞への叶わぬ恋の逆怨みから、女だてらに白刃をふりかざして恋しい男の生命を断とうとまでするものの、果てはわが身を破滅に追いこむという、色っぽいが可哀そうな女の役である。

衣笠さんの話では、主役の林長二郎ははじめから決まっていたが、「お初」を演じる女優にきめ手がなく監督は悩んでいた。ところが、某日、何かの用で京の町を歩いていた衣笠さんは、五